SONY

4-668-815-**01**(1)

CD-RW/DVD-ROM ドライブ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

本機ご使用前に必ずお読みください。

MEMORY STICK ™

COMPACT disc ReWritable High Speed

DVD ROM ™

MPD-AP20U

© 2002 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使い方をすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

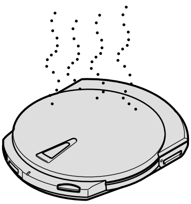
6〜10ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐに修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**
- **内蔵バッテリーや電池から液が漏れたら**



→ **電源コードやACアダプター、USBケーブルを抜く**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

詳しい使いかた

その他

⚠警告

火災　感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

ACアダプターや電源コードを傷つけない

ACアダプターや電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。

万一、電源コードが傷んだら、修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、ACアダプターや接続ケーブルを抜いて、修理窓口、または販売店にご依頼ください。



内部を開けない

開けたり改造したりすると、レーザー光線による視力障害や、火災、感電の原因となることがあります。内部の点検、修理は修理窓口、または販売店にご依頼ください。

分解禁止

⚠警告

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

火災　感電

ACアダプターのプラグについたホコリなどは定期的に取りのぞく

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不足となり、火災の原因となります。

指示

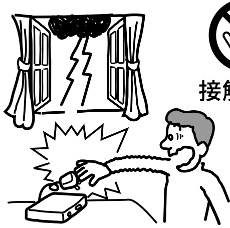
付属の電源コードやACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。
ACアダプター本体の形状や電源端子の形状が同じものもありますので、ご注意ください。

禁止

雷が鳴りだしたら、ACアダプターの電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

たこ足配線をしない

配線器具をたこ足配線して定格をこえた電流が流れると、火災などの原因となります。

禁止

ACアダプターのプラグは根元までコンセントにさしこむ

しっかり根元までさしこまないと、火災や感電の原因となります。

指示

“メモリースティック”挿入口に異物を入れない

発煙・火災の原因となることがあります。

禁止

⚠警告

火災

下記の注意事項を守らないと火災などにより死亡や大けがの原因となります。

運転、歩行中の使用について



- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ないでください。交通事故の原因になります。
- 車の中でお聞きになるときは、運転の妨げにならない安全な場所にしっかりと固定してください。
- 歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分にご注意ください。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACアダプターをさわらない

ぬれた手でACアダプターの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。



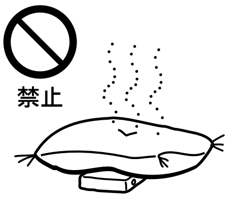
通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



移動させるときは、電源コードやACアダプターを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
また、本機を落とさないようにご注意ください。



⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

長時間使用しないときは電源コードやACアダプターのプラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のためACアダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

直射日光のあたる場所や熱機具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

- 耳を刺激するような大きな音で長時間聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。
- ヘッドホンの音量を上げすぎると音が外にもれます。まわりの人に迷惑にならないように気をつけてください。

禁止



はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て、耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。とくに、MD、CDやDATなど、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

禁止

レーザー安全基準について

この装置は、レーザーに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のCD-RW/DVD-ROMドライブです。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- Power-Burn、および Power·Burn™ はソニー株式会社の商標です。
- "メモリースティック" および MEMORY STICK™ はソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国Apple Computer Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピューターに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

- □ 弊社による製品保証は、同梱付属品（ソフトウェア含む）を使用し、指定または推奨するシステム環境を満足し、かつ取扱説明書に従う正常なご使用の場合において、CD-RW/DVD-ROMドライブ本体に限り有効です。また、ユーザーサポートなどの弊社サービスについても、製品保証と同等の使用条件に限り対応致します。
- □ 本製品のご使用による、コンピューター本体や他の機器の不具合、特定のハードウェア・ソフトウェア・周辺機器に対する適性、またインストールされたソフトウェア相互の適正などに起因する動作障害、データやディスクの損失、あるいは他の偶発的または必然的な損害に対しては、弊社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- □ 本製品は、日本国内向け販売製品です。保証およびユーザーサポートは日本国内においてのみ有効です。
- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機や付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

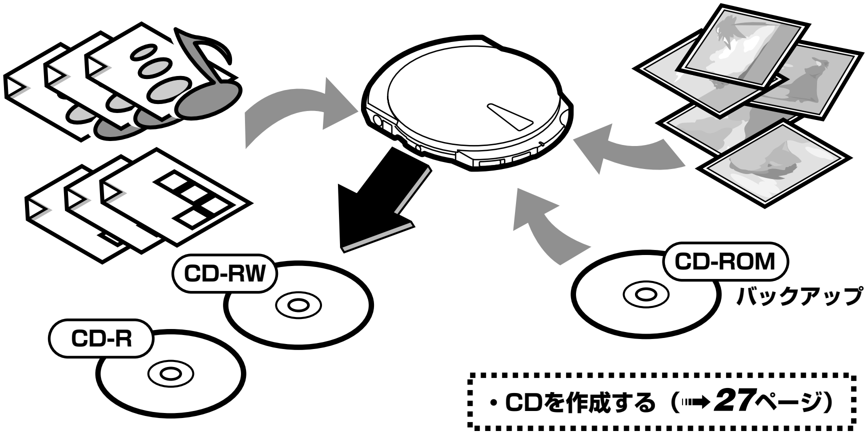
著作権にご注意ください

CD-R／CD-RWディスクや"メモリースティック"にデータを書き込む前に、その行為が著作権法に違反していないかを確認してください。多くのソフトウェアは、その所有者に対してバックアップや保管のためのコピーが許可されています。詳細については、コピー元のソフトウェアの使用許諾書などでご確認ください。

こんなことができます

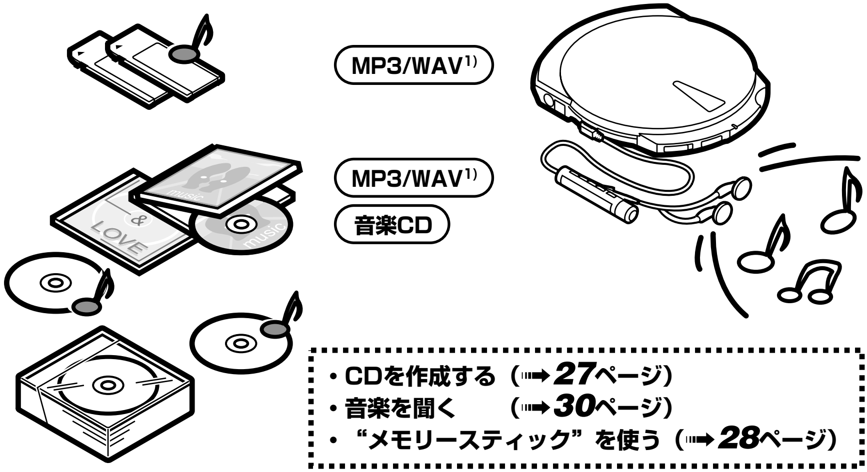
本機は、CD-RW/DVD-ROMドライブとしてだけでなく、CDプレーヤー、"メモリースティック"リーダー／ライターとしても使える多機能なドライブです。

CD-R/RWディスクにデータを書き込む



・CDを作成する（➡**27**ページ）

音楽を楽しむ

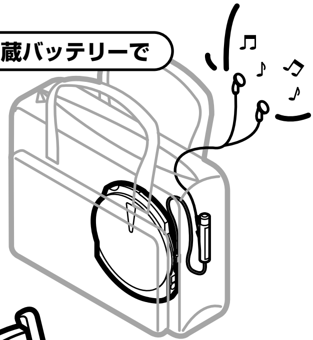


・CDを作成する（➡**27**ページ）
・音楽を聞く　（➡**30**ページ）
・"メモリースティック"を使う（➡**28**ページ）

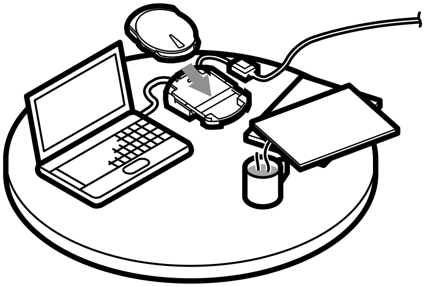
1) MP3ファイル、WAVファイルについては、「本機で演奏できるもの」（35ページ）をご覧ください。

いろいろな電源で使う

内蔵バッテリーで



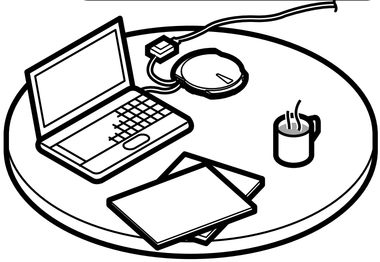
クレードルをコンセントにつないで



クレードルに電池を入れて



本体をコンセントにつないで



• 準備する　（➡18ページ）

DVDを見る

本機をコンピューターにつないでDVDビデオが楽しめます（付属のソフトウェアを使用します）。

• DVDを見る　（➡27ページ）

“メモリースティック”を使う

“メモリースティック”スロットが搭載されています。

• “メモリースティック”を使う　（➡28ページ）

便利なパワーマネジメント機能

ご使用の状況に応じて、自動的に電源がオン／オフしたり、充電されます。

• 電源について　（➡37ページ）

必要なシステム構成

本機は、次の仕様のコンピューターで使用できます。

Windows PC

□ CPU：Pentium II 400 MHz 以上

□ RAM：64 Mバイト以上

□ ハードディスク空き容量：1 Gバイト以上

□ OS：

- Windows 98 Second Edition（Windows 98 SE）
- Windows 2000 Professional（Service Pack 3以降）（Windows 2000）
- Windows Millennium Edition（Windows Me）
- Windows XP Home EditionおよびWindows XP Professional（Windows XP）

□ USBコネクターがあること[1)]

□ Windows 98 SEで使用する場合は、CD-ROMドライブ、またはインターネットに接続できる環境があること（ドライバーソフトウェアのインストールに使用します。）

Macintosh

□ PowerMac G3、G4、G4 Cube、iMac、eMac、iBook、PowerBook G3、G4

□ OS：Mac OS 9、X（Ver.10.1）
9.2.2、10.1.5推奨

□ RAM：64 Mバイト以上

□ USBコネクターがあること[1)]

1) 本機はUSB1.1よりもデータ転送が高速なUSB2.0規格のHi-Speed USBに対応しています。USB1.1機器に接続してご使用の場合、DVDビデオの再生時などに問題が生じることがあります。詳しくは、「DVDを見る」（27ページ）をご覧ください。

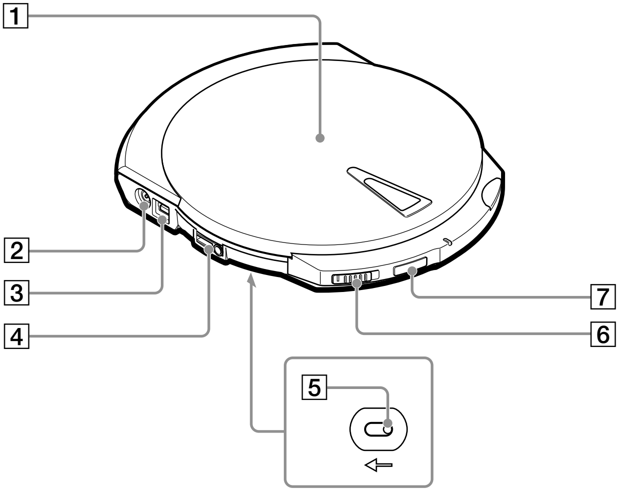
ご注意

上記は、CD-RやCD-RWディスクへの基本的な書き込み動作を想定した目安です。実際に本機をCD-RW/DVD-ROMドライブとして使用するには、ご使用になるソフトウェアで指定された条件も満たす必要があります。詳しくは、ソフトウェアの電子マニュアル（ソフトウェアディスク内）をご覧ください。

各部の名称とはたらき

本体

左面



1 **トップカバー**

2 **電源端子**
付属のACアダプターを接続します。

ご注意

付属のACアダプター以外は、絶対に使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。

3 **USBコネクター**
付属のUSBケーブルを接続します。

4 **🎧/REMOTEジャック**
付属のリモコンを接続します。

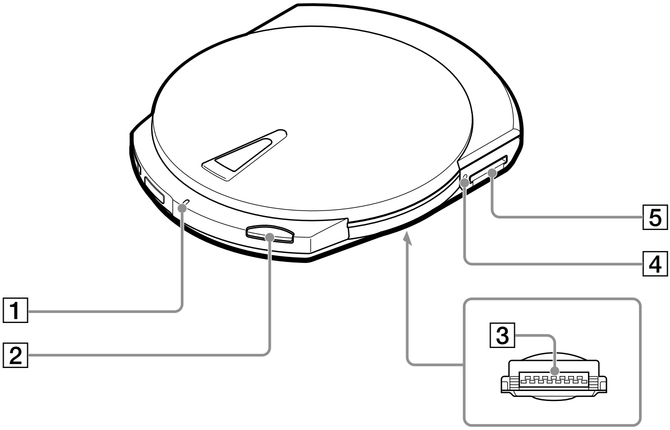
5 **マニュアルイジェクトレバー**（本体底面）
本機の電源が入っていないときは、このレバーを矢印の方向に押してトップカバーを開くことができます。

6 **LOCKスイッチ**
矢印の方向にスライドすると、本体のEJECTボタンとSOUNDボタンが効かなくなります。本機をかばんに入れて使うときなどに、誤ってボタンが押されてしまうのを防ぐために使います。

7 **SOUNDボタン**
本機で音楽を聞くとき、曲調に合わせて音色を切り換えることができます。詳しくは「音色を変える（SOUND機能）」（49ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

右面



1 CHARGE/BUSYインジケーター
本機の状態によって次のように点灯します。

- **コンピューターに接続している場合**
  電源が入っているとき .... **緑色**
  ディスクにアクセスしているとき .... **橙色**
- **コンピューターに接続していない場合**
  充電中 .... **赤色**

ご注意

本機には電源ボタンがありません。電源のオン/オフおよび充電は、本機の状態に応じて自動的に行われます。詳しくは「電源について」(37ページ)をご覧ください。

2 EJECTボタン
トップカバーを開くときに押します。

重要

動作中に誤ってトップカバーが開くことを防ぐため、本機は電動イジェクト機構になっています。このため、電源が入っていないときはトップカバーが開きません。また、ご使用のソフトウェアの状況によってはトップカバーが開くまで1秒以上かかることがあります。詳しくは「ディスクを取り出す」(25ページ)をご覧ください。

3 **クレードル用コネクター(底面)**
クレードルと接続します。接続部を保護するためのシャッターが付いています。

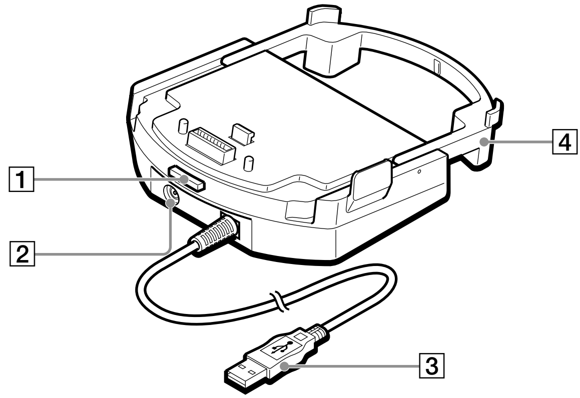
4 **"メモリースティック"BUSYインジケーター**
"メモリースティック"内のデータにアクセス中に、橙色に点灯します。

ご注意

上記のインジケーターの点灯中は、"メモリースティック"を取り出さないでください。

5 **"メモリースティック"スロット**
"メモリースティック"を挿入します。

クレードル



1 **リリースボタン**
本機を取り外すとき押します。

2 **電源端子**
付属のACアダプターを接続します。

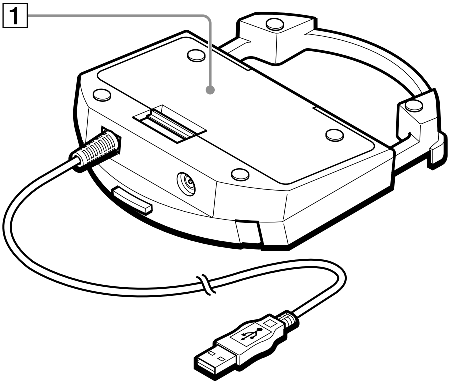
ご注意

付属のACアダプター以外は、絶対に使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。

3 **USBコネクター**
コンピューターのUSBコネクターに接続します。

4 **ストッパー**
本体を取り付けていないときは、反対側に倒しておくことができます。

底面



1 **電池ケース**
ふたを開けて、電池を入れます。詳しくは、「クレードルに電池を入れる」(38ページ)をご覧ください。

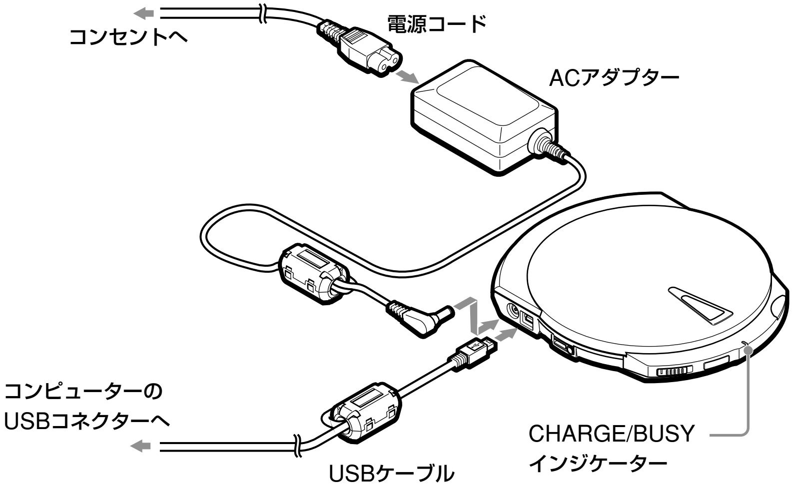
本体をコンセントにつないで使う場合

つなぐ

ご注意

本機を初めてコンピューターに接続するときは、必ず付属の「クイックスタートガイド」をご覧ください。

本機をコンセントとコンピューターに接続します。



上図のように接続すると本機の電源が入り、CHARGE/BUSYインジケーターが緑色に点灯します。

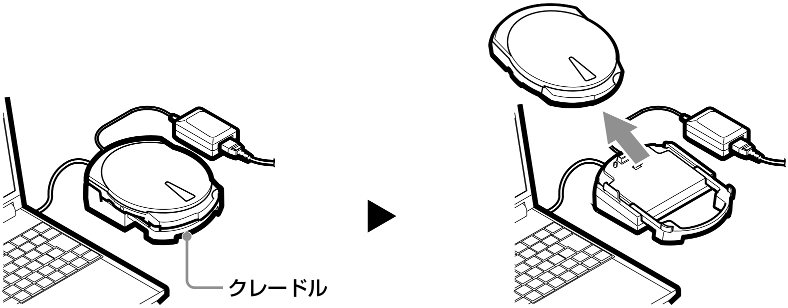
これで、本機をコンピューターで使用する準備ができました。

内蔵バッテリーで使うには

本機にはバッテリーが内蔵されていますので、コンセントに接続しないで使うこともできます。この場合は、バッテリーを充電する必要があります。詳しくは、「充電する」（22ページ）をご覧ください。

クレードルを使う場合

本機をコンピューターから取り外して外に持ち出すことが多い場合は、クレードルを使うと便利です。クレードルを使って接続すれば、本機を持ち出したり、再びコンピューターと使うときにケーブルの抜き差しをする必要がありません。

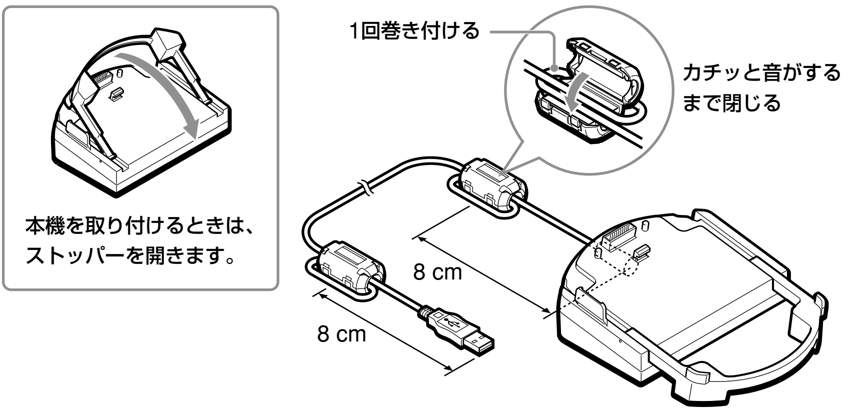


1 フェライトクランプを付ける

クレードルのUSBケーブルの両端に、付属のフェライトクランプを取り付けます。

ご注意

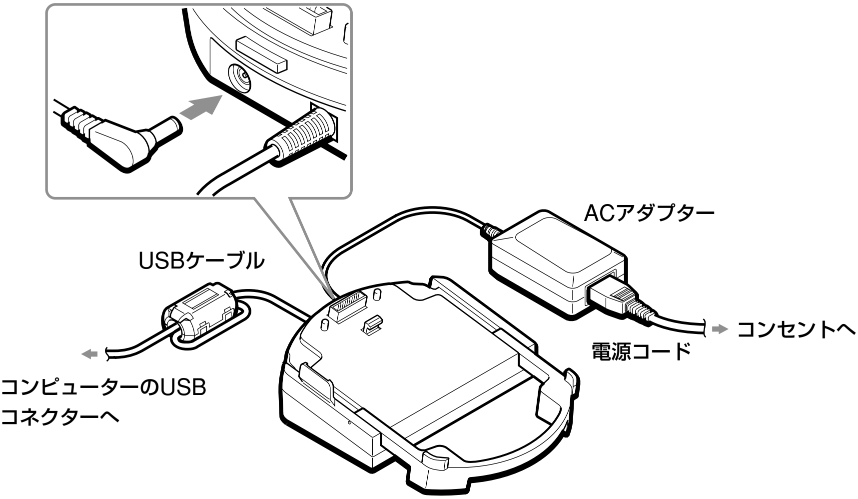
フェライトクランプによってケーブルから発生するノイズが低減し、VCCI規格に適合します。正しく取り付けてください。



次のページにつづく

2 クレードルをつなぐ

クレードルをコンセントとコンピューターに接続します。



クレードルに電池を入れて使うには

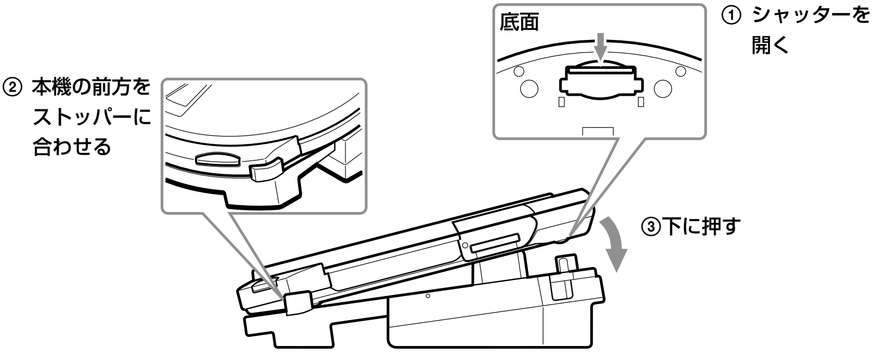
クレードルに充電式電池を入れて、コンセントに接続しないで使うこともできます。詳しくは、「電源について」（37ページ）をご覧ください。

3 クレードルに取り付ける

ご注意

本機を初めてコンピューターに接続するときは、必ず付属の「クイックスタートガイド」をご覧ください。

本機をクレードルに取り付けます。

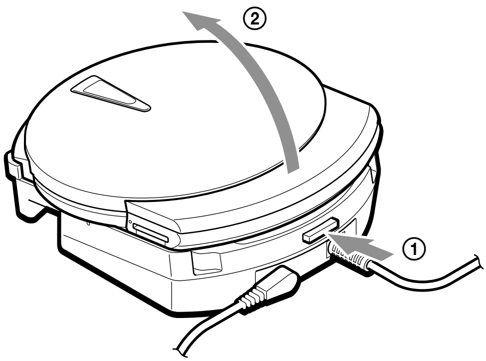


クレードルに取り付けると本機の電源が入り、CHARGE/BUSYインジケーターが緑色に点灯します。

これで、本機をコンピューターで使用する準備ができました。

クレードルから取り外すには

クレードルのリリースボタンを押して取り外します。



内蔵バッテリーで使う場合

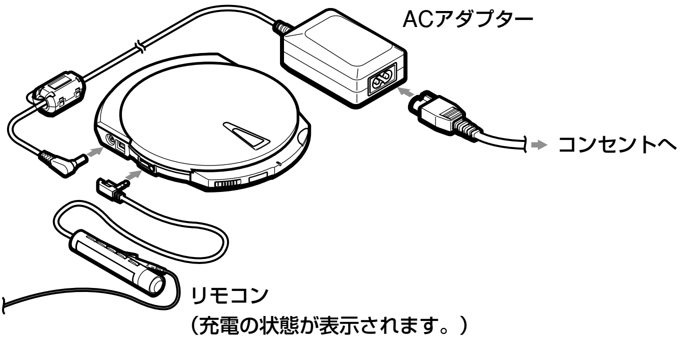
充電する

本機は、コンセントに接続しているあいだ自動的に充電されます。お買い上げ後すぐや、長期間ご使用にならなかった場合は充電を行ってください。
バッテリーが完全に空のときは、満充電になるまでに約4時間かかります。

- こまめに充電すれば、次回からの充電は短時間で終了します。
- 本機をクレードルに取り付けている場合も、クレードルをコンセントに接続すれば本体の内蔵バッテリーが充電されます。
- 内蔵バッテリーについて詳しくは「電源について」（37ページ）をご覧ください。

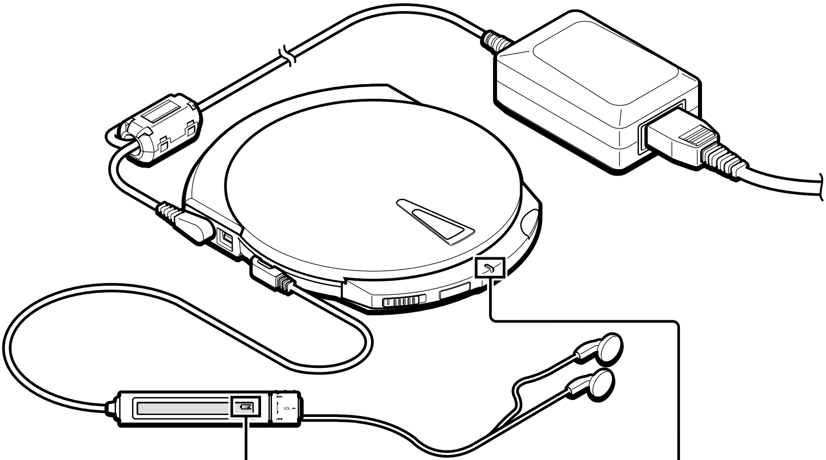
1　コンセントに接続する。

充電が始まります。
（動作中もバックグラウンドで充電されます。）



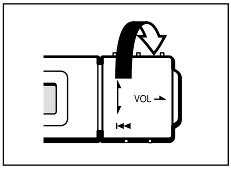
満充電になると充電が終了します。

充電終了を知るには



	コンピューターに接続 しているとき	コンピューターに接続 していないとき
充電中	 （バッテリーマークが流れるように動きます。）	赤色に点灯
充電終了	（バッテリーマークが消えます。）	消灯

バッテリー残量を確認するには



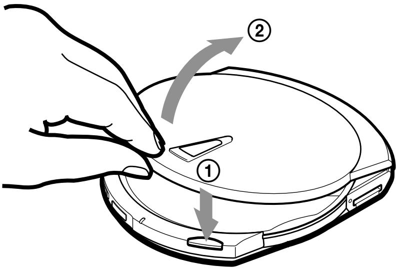
本機からACアダプターを取り外し、リモコンの回転つまみを回すと（右図）表示窓に現在のバッテリー残量が表示されます。満充電の場合は、表示窓に  が表示されます。

基本的な使いかた

ディスクを使う

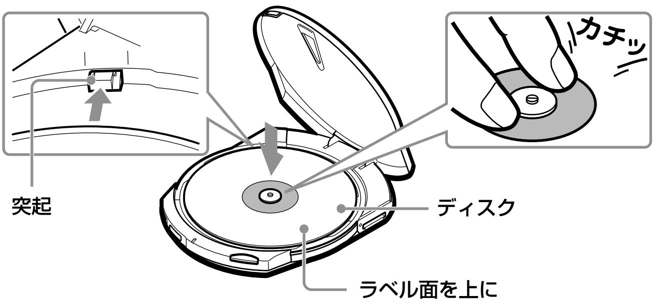
ディスクを入れる

1 EJECTボタンを押して、トップカバーを開ける。



2 ディスクを入れる。

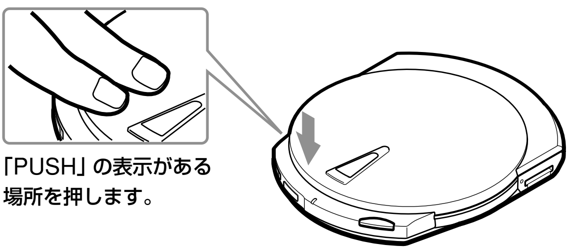
ディスクの中央部を、カチッと固定されるまで押します。



ご注意

ディスクは、後方左側にある突起の上に乗り上げないように入れてください。

3 トップカバーを閉める。



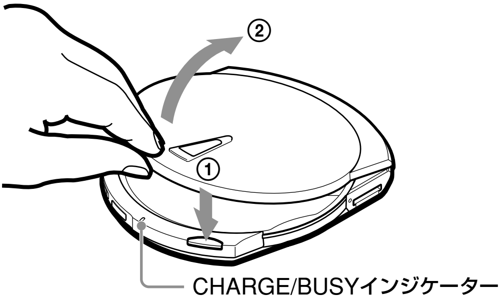
ディスクを取り出す

ご注意

CHARGE/BUSYインジケーターが橙色に点灯中（ディスクにアクセス中）は、ディスクを取り出さないでください。

1 **EJECTボタンを押して、トップカバーを開ける。**

トップカバーが開きます。

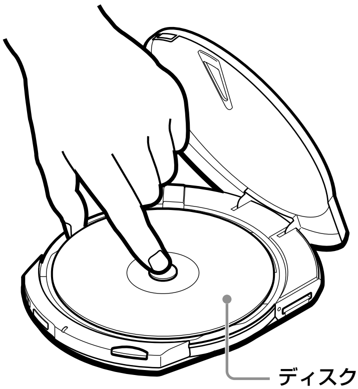


Windowsの場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウで本機のアイコンを右クリックして［取り出し］を選択しても、トップカバーが開きます。
Macintoshの場合は、ディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグアンドドロップしても、トップカバーが開きます。

- コンピューターや本機の状態によっては、トップカバーが開くまで1秒以上かかることがあります。または、OSやご使用中のソフトウェア上で、ディスク取り出しの操作が必要な場合もあります。
- トップカバーが開かないときは（書き込み中を除く）、本体底面にあるマニュアルイジェクトレバーを矢印方向に押してトップカバーを開いてください。

2 **ディスクを取り出す。**

中央の突起部を押しながら取り出します。



次のページにつづく

コンピューターからディスク内のデータにアクセスする

通常、ディスク内のフォルダーやファイルを表示させるには、次のように操作します。

Windowsの場合

画面例はWindows XPの場合です。

1 ［マイコンピュータ］を開く。

「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



2 下のアイコンをダブルクリックする。



割り当てられるドライブ文字は、ご使用のコンピューターによって異なります（この例では「G」）。

ディスク内のフォルダーやファイルが表示されます。

Macintoshの場合

本機にディスクを入れると、デスクトップにアイコンが表示されます。そのアイコンをダブルクリックすると、ディスク内のフォルダーやファイルが表示されます。

CDを作成する（付属のソフトウェアを使う）

本機を使ってCD-RディスクやCD-RWディスクにデータを書き込んだり、音楽CDを作ったりするには、付属のソフトウェアディスクに収録されているソフトウェアを使います。
ソフトウェアのインストール方法、機能や使いかたについては、ソフトウェアマニュアル[1]をご覧ください。

Windows XPまたはMac OS Xをお使いの場合は、OS標準の書き込み機能を使用することもできます。詳しくは、Windows XPまたはMacintoshのヘルプなどをご覧ください。

DVDを見る（付属のソフトウェアを使う）

本機を使ってDVDビデオを見るには、付属のソフトウェアディスクに収録されているソフトウェアを使います。
ソフトウェアのインストール方法、機能や使いかたについては、ソフトウェアマニュアル[1]をご覧ください。

ＵＳＢ1.1コネクターについてのご注意

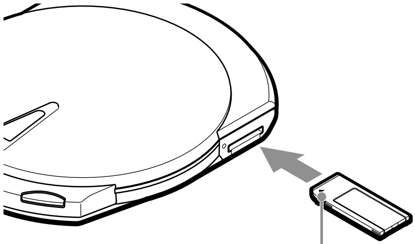
本機をUSB1.1準拠のコネクターに接続してDVDビデオを再生した場合、コマ落ちや音とびが発生しますが、故障ではありません。（これは、USB1.1規格の最大転送レートに左右される現象です。）
DVDビデオをスムーズに再生するには、USB2.0準拠（Hi-Speed USB）のUSBコネクターを装備するコンピューターまたはインターフェース製品（PCIカードやPCカードなど）に接続してください。

[1] ソフトウェアマニュアル：付属の「ソフトウェアクイックスタートガイド」や、各ソフトウェアの電子マニュアル、オンラインヘルプなど

“メモリースティック”を使う

“メモリースティック”を入れる

1 “メモリースティック”を“メモリースティック”スロットに入れる。



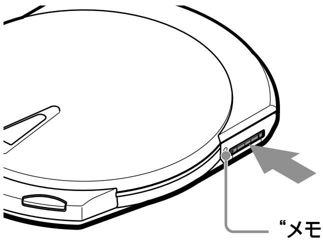
▲の方向に差し入れて、カチッと固定されるまで奥に押す

“メモリースティック”を取り出す

ご注意

“メモリースティック”BUSYインジケーターが橙色に点灯中（“メモリースティック”にアクセス中）は、“メモリースティック”を取り出さないでください。

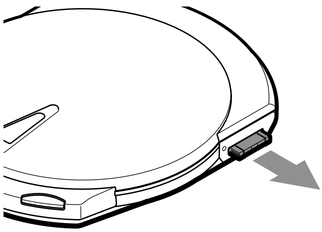
1 “メモリースティック”を奥に押し込む。



“メモリースティック”BUSYインジケーター

2 いったん手を離し、“メモリースティック”を取り出す。

手を離すと、“メモリースティック”が少し出るので引き出します。



Macintoshをご使用の場合、“メモリースティック”を取り出してもデスクトップのアイコンが残っているときは、アイコンをゴミ箱にドラッグアンドドロップしてください。

コンピューターから“メモリースティック”内のデータにアクセスする

“メモリースティック”内のフォルダーやファイルを表示させるには、次のように操作します。

Windowsの場合

画面例はWindows XPの場合です。

1 **［マイコンピュータ］を開く。**

「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。



2 **下のアイコンをダブルクリックする。**



割り当てられるドライブ文字は、ご使用のコンピューターによって異なります（この例では「E」）。

“メモリースティック”内のフォルダーやファイルが表示されます。

Macintoshの場合

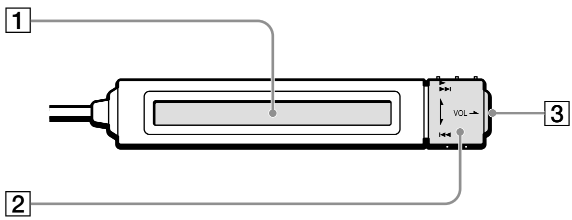
本機に“メモリースティック”を入れると、デスクトップにアイコンが表示されます。そのアイコンをダブルクリックすると、“メモリースティック”内のフォルダーやファイルが表示されます。

音楽を聞く（CDプレーヤーとして使う）

本機をCDプレーヤーとして使うときは、付属のリモコンを使います。

リモコン各部の名称

前面

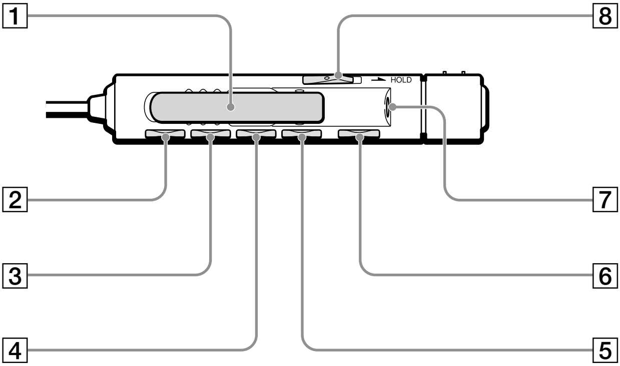


1 **表示窓**
バッテリーの残量、演奏中の曲番号や経過時間などが表示されます。
（35ページ）

2 **回転つまみ**
演奏の開始、音量の調節、曲の頭出しなどをするときに使います。
（33、34ページ）

3 **（■）停止ボタン**
演奏を停止するときに押します。
（34ページ）

後面



1 **クリップ**

2 **DISPLAYボタン**
表示窓の曲情報を切り換えるときに押します。（48ページ）

3 **PLAY MODEボタン**
演奏方法を切り換えるときに押します。（42ページ）

4 **RPT/ENT（Repeat/Enter）ボタン**
リピート演奏をしたいときや、プログラム演奏を設定するときに押します。（42ページ）

5 **SOUNDボタン**
音色を切り換えるときに押します。（49ページ）

6 **II（一時停止）ボタン**
演奏を一時停止／一時停止解除します。

7 **ヘッドホンジャック**
ヘッドホンを接続します。

8 **HOLDスイッチ**
持ち運び中などの誤動作を防ぐことができます。（50ページ）

ご注意

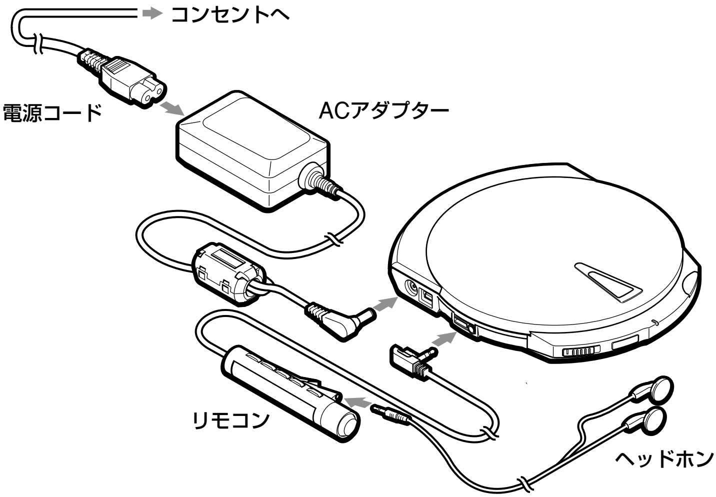
付属のリモコンでは、他のCDプレーヤーを操作できないことがあります。また、本機に他のリモコンを接続した場合、本機が正常に動作しないことがあります。

次のページにつづく

演奏を始める～音量を調節する

ディスクや“メモリースティック”内の音楽をヘッドホンから聞きます。
内蔵バッテリーで使うこともできます。（「充電する」（22ページ）をご覧ください。）

1　リモコンやヘッドホンを接続する。

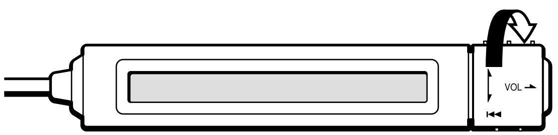


2　ディスクや“メモリースティック”を入れる。

音楽CDや、音楽ファイルが記録されたディスクまたは“メモリースティック”を入れます。

3　リモコンの回転つまみを回す。

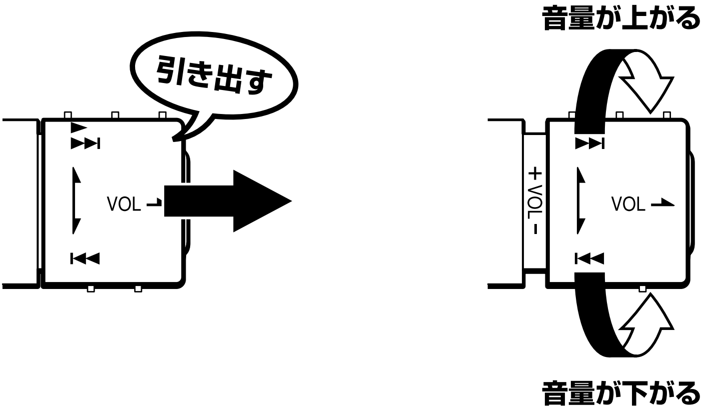
演奏が始まります。



- 演奏できるディスクの種類やファイル形式については、「本機で演奏できるもの」（35ページ）をご覧ください。ファイルの選択方法などについては、「音楽ファイルを聞く」（40ページ）をご覧ください。
- 演奏中にリモコンを取り外すと、演奏が停止します。

音量を調節するには

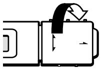
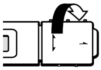
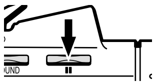
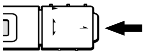
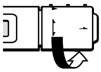
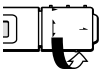
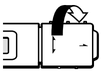
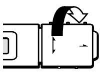
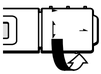
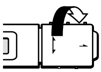
リモコンの回転つまみを引き出して回すと、音量が調節できます。



音量を上げようとしても、リモコンの表示窓に「AVLS」が表示されて音量が上がらないときは、リモコンのSOUNDボタンを「AVLS OFF」が表示されるまで押し続けてください。詳しくは、「音もれを抑える（AVLS機能）」（50ページ）をご覧ください。

リモコンの操作方法

リモコンの基本的な操作のしかたです。

何をしますか？	操作	
演奏開始（続きから）		
演奏開始（1曲目から）		演奏が始まるまで回したままにする
一時停止／解除		押す
演奏停止 （演奏中または一時停止中）		押す
今聞いている曲の頭出し （演奏中または一時停止中）		一度回す
前の曲、さらに前の曲の頭出し （演奏中または一時停止中）		繰り返し回す[1]
次の曲の頭出し （演奏中または一時停止中）		一度回す[2]
さらに次の曲の頭出し （演奏中または一時停止中）		繰り返し回す[2]
早戻し （演奏中または一時停止中）		回したままにする
早送り （演奏中または一時停止中）		回したままにする

1) リピート演奏時には、1曲目ですると最後の曲になります。

2) リピート演奏時には、最後の曲ですると1曲目になります。

表示窓について

演奏中は、リモコンの表示窓に、演奏中の曲番号とその経過時間が表示されます。



音楽ファイル（MP3、WAV）の場合は

曲の最初に曲名（曲名情報がない場合はファイル名）が表示され、続いてその曲の経過時間が表示されます。曲名の文字数が多い場合は、スクロール表示されます。

表示窓の照明について

表示窓の照明は、リモコンを操作すると数秒間だけ点灯し、自動的に消灯します。

本機で演奏できるもの

本機では、次のものが演奏できます。

- 市販の音楽CD
- オリジナル音楽CD（CD-DA形式でCD-R/RWディスクに記録したもの）
- CD-R/RWディスクに記録した音楽ファイル（MP3、WAV形式）
- DVD-R/RWディスクに記録した音楽ファイル（MP3、WAV形式）
- “メモリースティック”に記録した音楽ファイル（MP3、WAV形式）

- 記録に使用したレコーダーの状態やソフトウェアの設定、メディアによっては、本機で演奏できない場合があります。
- 本機で演奏できる音楽ファイルについて詳しくは、「音楽ファイルについて」（55ページ）をご覧ください。

次のページにつづく

MP3とは

「MPEG Audio Layer3」の略で、音声データ圧縮技術のひとつです。MP3で圧縮したファイルのサイズは、WAVファイルの10分の1程度にまで小さくなります。このため、5分間の曲なら1枚のCD-Rディスクに100曲以上も記録できます。

WAVとは

Windowsで標準の音声ファイルの形式です。圧縮されていないので音質はMP3よりも高く、ファイルのサイズはMP3の10倍程度になります。

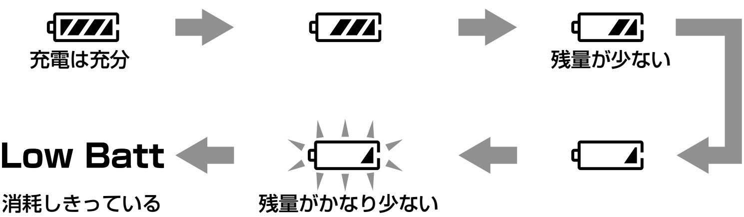
電源について

本機は、下記の電源で使うことができます。また、それぞれの電源で使用中に下記のパワーマネージメント機能がはたらきます。

	本体	クレードル	パワーマネージメント
AC電源	○	○	バックグラウンドで内蔵バッテリーに充電
内蔵バッテリー	○	—	操作に応じて電源オン／オフ
充電式電池（8本）	—	○	操作に応じて電源オン／オフ

内蔵バッテリーの残量をたしかめる

内蔵バッテリーの残量を確認するには、リモコンを取り付けます。バッテリーの残量が減ると、リモコンの表示窓に次のように表示されます。



ご注意

- バッテリー残量を確認するときは本機をAC電源から外してください。AC電源に接続中には、バッテリー残量は表示されません。
-  の中の残量レベルを示すバーは目安です。1つのバーが総量の4分の1を示しているわけではありません。
- 残量レベルを示すバーは、動作状況により増減することがあります。

本体（バッテリー）を廃棄するときは

本機で使用している電池はリチウムイオンポリマー電池です。本体を廃棄するときは、地方自治体の条例に定められた方法に従って処理してください。

次のページにつづく

クレードルに電池を入れる

クレードルには充電式電池（8本）を入れることができます。本機を電池入りのクレードルに取り付けると、より長時間コンセントにつながずに使うことができます。

使用できる電池

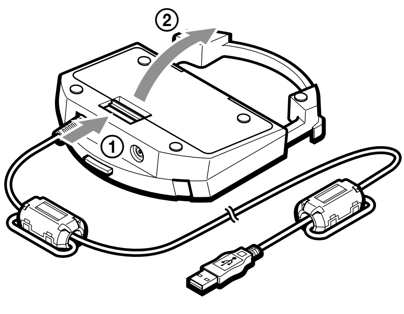
● 充電式電池
単3形ニッケル水素電池（NiMH）（別売り）
単3形ニカド電池（NiCd）（別売り）

ご注意

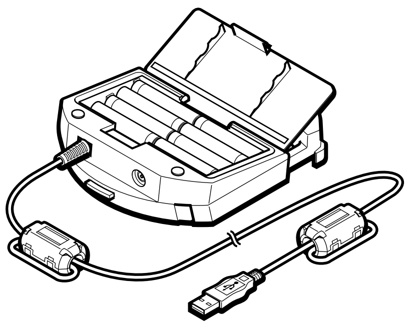
- クレードルは充電器としてはご使用になれません。充電式電池の充電には、別売りの充電器をご用意ください。
- 乾電池はご使用になれません。

電池の入れかた

1 **クレードル底面の電池ケースのふたを開ける。**



2 **電池を8本入れる。**



ご注意

- 電池の向き（プラス、マイナス）は、ケースの表示に従って正しく入れてください。
- 同じ種類の電池を入れてください。
- クレードルを長期間使用しない場合は、電池を取り出して保管してください。液漏れの原因になります。
- 電池を交換するときは、8本をすべて交換してください。新しいものと古いものを混ぜて使うと液漏れの原因になります。

内蔵バッテリーや電池の持続時間について

再生時間と記録できるディスク枚数の目安です。

連続再生時間

	音楽CD[1]	MP3 CD[1]	DVDビデオ[2]
内蔵バッテリー	約4時間	約10時間	約1.5時間
内蔵バッテリーとクレードルの電池を併用した場合			
ニッケル水素電池	約12時間	約30時間	約5時間
二カド電池	約9時間	約22時間	約3.5時間

1) 演奏モードを変えずに再生した場合

2) 片面2層のディスクを再生した場合

連続書き込み枚数

	CD-Rディスク[3]	CD-RWディスク[3]
内蔵バッテリー	約9枚	約8枚
内蔵バッテリーとクレードルの電池を併用した場合		
ニッケル水素電池	約26枚	約21枚
二カド電池	約14枚	約10枚

3) 最適な速度、480 Mbpsの転送レートで650 Mバイトのディスクに書き込みを行った場合

ご注意

- 内蔵バッテリーと充電式電池は満充電状態にした場合です。
- 実際の時間や枚数は、ご使用の条件によって変化します。

音楽ファイルを聞く

音楽ファイル（MP3、WAV形式）を聞くときも、基本的な操作は「音楽を聞く（CDプレーヤーとして使う）」（30ページ）のとおりです。
ここでは、音楽ファイル特有のことについて説明します。

本機で演奏できる音楽ファイルについて詳しくは、「音楽ファイルについて」（55ページ）をご覧ください。

フォルダーやファイルを選ぶ

フォルダーを選ぶには

1 **音楽ファイルの演奏中に、「／＜フォルダー名＞／」が表示されるまでリモコンのDISPLAYボタンを繰り返し押す。**

2 **回転つまみを ⏮ または ▶/⏭ に回してフォルダーを選ぶ。**
選択したフォルダー内のファイルの演奏が始まります。

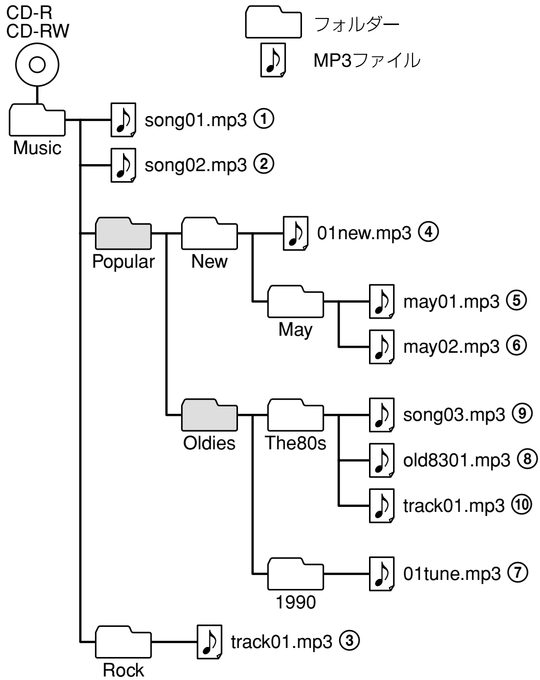
ファイルを選ぶには

1 **音楽ファイルの演奏中に、表示窓の表示がその曲の経過時間（またはファイル名）になっていない場合は、DISPLAYボタンを押して表示させる。**

2 **回転つまみを ⏮ または ▶/⏭ に回してファイルを選ぶ。**
選択したファイルの演奏が始まります。

フォルダー構造と演奏順

通常の演奏では、階層が上にあるファイルから演奏されます。また、階層が同じフォルダーやファイルは、アルファベット順に演奏されます。
たとえば、下図のようなフォルダー構造の場合は①～⑩の順に演奏されます。



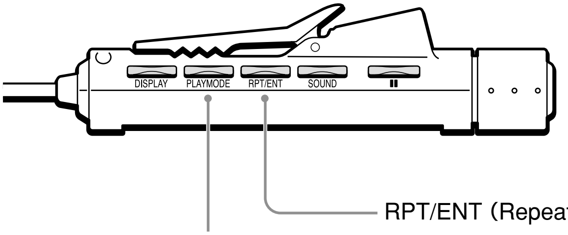
ご注意

- ディスクと"メモリースティック"の両方がセットされている場合は、ディスクが先に演奏されます。
- 音楽CDの場合は、ディスク全体が1つのフォルダーとみなされ、トラック（曲）がファイルとみなされます。
- 音楽ファイルを含まないフォルダーは、とばして演奏されます。
- 文字種による優先順は、記号、数字、アルファベットの順です。
- 本機では、フォルダー名とファイル名はそれぞれ64文字まで表示できます。（Joliet拡張フォーマット）
- 同じフォルダー内にあるファイルを希望する順序で演奏するには、次のようにすることをおすすめします。
  – 1つのフォルダー内に256を超えるファイルを入れない。
  – ファイル名とフォルダー名には、A～Z、a～z、0～9などの1バイトコードのみを使用する（日本語のような2バイトコードは使用しない）。
  – ファイル名の先頭8文字以内に、演奏順に応じた英数字を入れる。
    例：01-MyHeart.mp3

詳しい使いかた

いろいろな聞きかた

リモコンのPLAY MODEボタン、RPT/ENTボタンを使って、いろいろな聞きかたで楽しめます。



PLAY MODEボタン

演奏中に押すと、演奏モードを変えることができます。

通常の演奏
（all）
↓
選んだフォルダー内の全曲を聞く
（folder）[1)]
↓
1曲だけを聞く
（single）
↓
全曲を順不同に聞く
（all）SHUF
↓
選んだフォルダー内の全曲を順不同に聞く
（folder）SHUF[1)]
↓
好きな順に曲を選んで聞く
PGM

RPT/ENTボタン

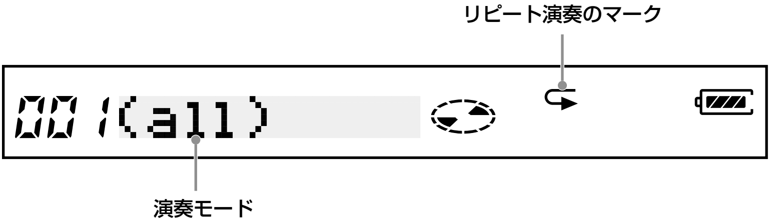
- PLAY MODEボタンで決定した演奏モードで、演奏を繰り返します。
- プログラム演奏の設定をするとき、曲を決定します。

[1)] 音楽CDの場合は、ディスク全体が1つのフォルダーとみなされます。

繰り返し聞く（リピート演奏）

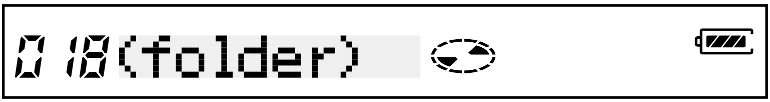
通常の演奏やフォルダー演奏、シングル演奏、シャッフル演奏、フォルダーシャッフル演奏、プログラム演奏を繰り返し聞けます。
たとえば、通常の演奏中にリピート演奏にすると、ディスク内の全曲が繰り返し演奏されます。フォルダー演奏中にリピート演奏にすると、選んだフォルダー内の全曲が繰り返し演奏されます。

演奏中にRPT/ENTボタンを押す。



選んだフォルダー内の全曲を聞く（フォルダー演奏）

演奏中に、「(folder)」が表示されるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。

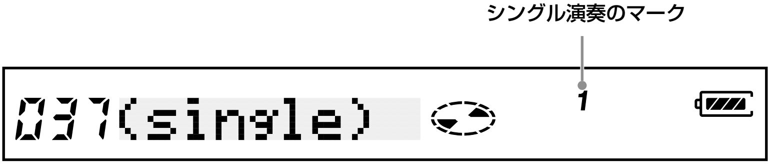


詳しい使いかた

次のページにつづく

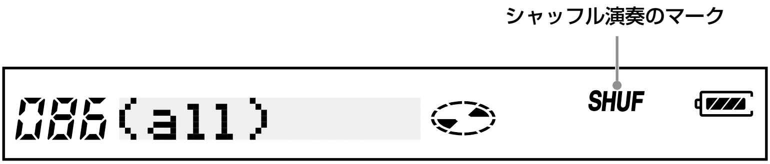
1曲だけを聞く（シングル演奏）

演奏中に、「(single)」が表示されるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。



全曲を順不同に聞く（シャッフル演奏）

演奏中に、「(all)」と「SHUF」が表示されるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。



選んだフォルダー内の全曲を順不同に聞く（フォルダーシャッフル演奏）

演奏中に、「(folder)」と「SHUF」が表示されるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。



好きな順に曲を選んで聞く（プログラム演奏）

聞きたい曲を好きな順に最大64曲まで選んで聞けます。

1 **演奏中に、「＊PROGRAM＊」が表示されるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。**

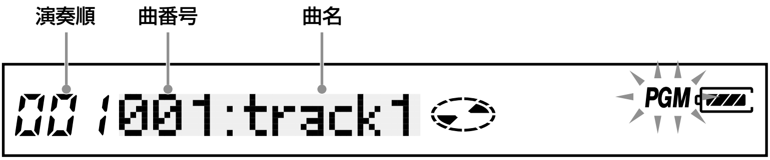
ディスクや“メモリースティック”内にプレイリストファイルがある場合は、PLAY MODEボタンを繰り返し押してプレイリストのファイル名が表示されたら、「＊PROGRAM＊」が表示されるまで回転つまみを▶/▶▶I側に回します。



2 **RPT/ENTボタンを押す。**

プログラム演奏の設定ができるようになります。

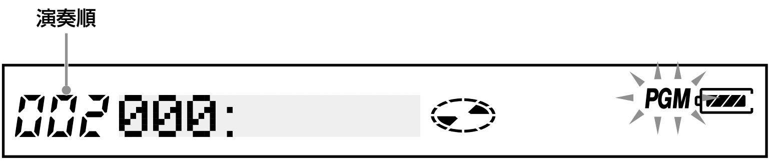
3 **回転つまみを I◀◀ または ▶/▶▶I 側に回して曲を選ぶ。**



「曲名」部の表示は、曲やファイルに含まれている情報によって異なります。

4 **RPT/ENTボタンを短く押し、曲を決定する。**

演奏順の表示が「002」になり、2曲目が選択できるようになります。



5 **手順3、4を繰り返して好きな順に曲を選ぶ。**

6 **RPT/ENTボタンを演奏が始まるまで押す。**

プログラムした順序で演奏されます。

次のページにつづく

選んだ曲を確認するには

曲を選んでいるときに確認する

1 **手順6の操作の前にRPT/ENTボタンを繰り返し押す。**
RPT/ENTボタンを押すたびに、演奏順と曲番号が表示されます。

プログラム演奏中に確認する

1 **「PGM」が点滅するまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。**

2 **RPT/ENTボタンを繰り返し押す。**
RPT/ENTボタンを押すたびに、演奏順と曲番号が表示されます。

ご注意

- 手順4で64曲を選び終わると、「000」ではなく最初に登録した曲番号が表示されます。
- 64曲以上選ぶと、演奏順「001」の設定から消えてしまいます。

プレイリストの順に聞く（プレイリスト演奏）

音楽ファイルは、ディスクや“メモリースティック”にあるプレイリストで決められた順に聞くことができます。

この機能を使うには、あらかじめ、ディスクや“メモリースティック”内にプレイリストファイル（拡張子：m3u）を記録しておく必要があります。詳しくは、「プレイリストファイルについて」（56ページ）をご覧ください。

1 **演奏中に、プレイリストのファイル名が表示されるまでPLAY MODEボタンを繰り返し押す。**



2 **複数のプレイリストファイルがある場合は、回転つまみを►/►►I側に回してファイルを選ぶ。**



3 **RPT/ENTボタンを短く押し、ファイルを決定する。**
プレイリストファイル内の1曲目から演奏されます。

音楽演奏のいろいろな機能

曲情報を確認する

リモコンのDISPLAYボタンを使って、下記の情報を確認することができます。

- CD-TEXT（文字情報）の入った音楽CDの曲名、アルバム名、アーティスト名
- 音楽ファイルのファイル名、フォルダー名、MP3ファイルのID3タグ（曲名、アルバム名、アーティスト名）

ID3タグについては、56ページをご覧ください。

演奏中にリモコンのDISPLAYボタンを押す。

ボタンを押すたびに、次のように表示が変わります。

	表示窓の表示
通常の演奏	**曲番号　　曲名[1] と現在の経過時間** [1] 曲名情報がない場合はファイル名が表示されます。
↓	
DISPLAYボタンを押す	**曲番号　　曲名[1] ／アーティスト名** [1] 曲名情報がない場合はファイル名が表示されます。
↓	
DISPLAYボタンをもう一度押す	**残り曲数　　アルバム名／アーティスト名**
↓	
DISPLAYボタンをもう一度押す	**フォルダー番号 ／フォルダー名／**

ご注意

- フォルダー演奏中は、フォルダー内での曲番号や残り曲数が表示されます。
- 表示できる文字は、A～Z、a～z、0～9などの1バイトコードのみです（日本語のような2バイトコードは表示できません）。
- 情報が入っていない場合や対応しない文字情報が含まれている場合は、表示されなかったり正しく表示されません。
- 音楽CDの場合、フォルダー名には「＊CDDA＊」が表示されます。
- プレイリスト演奏中は、フォルダー名にはプレイリストのファイル名が表示されます。
- プログラム演奏中は、フォルダー名には「＊PROGRAM＊」が表示されます。

音色を変える（SOUND機能）

音楽の種類に合わせた音色で演奏を楽しめます。

リモコンまたは本体のSOUNDボタンを押す。

SOUNDボタンを押すたびに、次のように表示が変わります。

NORMAL（通常の演奏）
↓
BASS 1（ベース1）[1]
↓
BASS 2（ベース2）[1]
↓
ROCK（ロック）
↓
JAZZ（ジャズ）
↓
DANCE（ダンス）
↓
LATIN（ラテン）
（NORMALに戻る）

[1] 低音が強調された重厚な音色です。「BASS 2」のほうがより低音が強調されます。



「BASS 1」と「BASS 2」はここに表示される

ご注意

音がひずむときは、音量を下げてください。

次のページにつづく

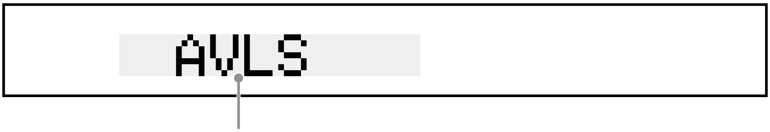
音もれを抑える（AVLS機能）

音量の上げすぎによる音もれ、耳への圧迫感、周囲の音が聞こえないことによる危険などを少なくするために、音量をある一定以上に上げないようにします。

「AVLS ON」が表示されるまで、リモコンまたは本体のSOUNDボタンを押し続ける。

音量を一定以上に上げようとすると

AVLS[1] 機能がオンになっている場合は表示窓に「AVLS」が表示され、それ以上音量を上げることができません。



音量を一定レベル以上に上げようとすると表示される

音量を上げるには、「AVLS OFF」が表示されるまでSOUNDボタンを押し続けます。

[1] AVLSは、Automatic Volume Limiter System（オートマチックボリュームリミッターシステム）の略です。

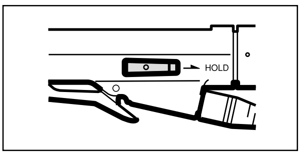
ご注意

SOUND機能とAVLS機能を同時に使うと、音がひずむことがあります。その場合は音量を下げてください。

誤動作を防ぐ（HOLD機能）

持ち運び中などに誤ってリモコンの操作ボタンが押され、動作するのを防ぎます。

HOLDスイッチを矢印の方向にスライドさせる。



HOLD機能を解除するには

HOLDスイッチを矢印と反対の方向にスライドさせます。

ご注意

HOLD機能が働いていても、リモコンの表示窓に「HOLD」の文字は表示されません。

CDとDVDについて

使用できるディスク

本機では、下記のディスクが使用できます。

ディスクの種類	マーク
DVD-ROM	
DVD-Video	
DVD+R[1] （読み出しのみ）	
DVD+RW[1] （読み出しのみ）	
DVD-R[1] （読み出しのみ）	
DVD-RW[1] （読み出しのみ）	
CD-R	
CD-RW	
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	
ビデオCD	
CD TEXT	

1) 本機では、DVDディスクへの書き込みはできません。また、書き込みに使用した機器やディスク、書き込み時の設定によっては読み出しできない場合もあります。

ご注意

- 円形ディスクのみご使用になれます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）のディスクを使用すると、本機の故障の原因となりますので、使用しないでください。
- 音楽CDは、ディスクレーベル面に COMPACT disc DIGITAL AUDIO マークの入ったものなどJIS規格に合致したディスクをご使用ください。CD規格外ディスクを使用された場合には再生の保証はいたしかねます。また再生できた場合であっても音質の保証はいたしかねます。
- 99分ディスクの書き込みおよび再生については動作の保証をしておりません。
- 8 cmディスクへの書き込みについては動作の保証をしておりません。

次のページにつづく

CD-RディスクとCD-RWディスク

本機は、CD-Rディスク、およびCD-RWディスクに書き込みができます。
これらのディスクへの書き込みには、付属のライティングソフトウェアを使用します。他のCDプレーヤーやCD-ROMドライブなどで再生（読み出し）できるように書き込むには、ライティングソフトウェア上で目的に応じたオプションを選択する必要があります。
書き込みの操作について詳しくは、ソフトウェアマニュアル[1]をご覧ください。

[1] ソフトウェアマニュアル：付属の「ソフトウェアクイックスタートガイド」や、各ソフトウェアの電子マニュアル、オンラインヘルプなど

CD-Rディスクとは

1度だけデータを書き込めるディスクです。一度書き込まれたデータは消去したり移動することができません。ただし、トラックアットワンスと呼ばれる書き込みの方法では、CD-Rディスクに残り容量がある限り、最大99回まで追記できます。
また、ディスクアットワンスと呼ばれる書き込みの方法で作成した音楽CDは、一般のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD-RWディスクとは

データを書き込んだり、消去することができるディスクです。目安として、未使用のCD-RWディスクで約1000回のディスク全体の書き換えができます。また、パケットライトと呼ばれる書き込みの方法ではファイル単位で書き込みや消去が可能なため、CD-RWディスクをフロッピーディスク感覚で使うことができます。
なお、CD-RWディスクを使用して作成した音楽CDは、一部のCD-RW対応機種を除き、一般のCDプレーヤーで再生することができません。

High Speed CD-RWディスクについて

本機は、High Speed CR-RWディスクに書き込みを行うことができます。High Speed CD-RWディスクに書き込んだディスクも、一般のCD-ROMドライブなどで再生することができます。

ご注意

High Speed CR-RWディスクには、High Speed CR-RWロゴの付いた CD-R/RWドライブ以外では書き込みが行えません。追記や書き込みを行う場合は、必ずHigh Speed CD-RW ロゴの付いた製品を使用してください。また、必ずHigh Speed CD-RWディスクに指定された書き込み速度に設定して書き込みを行ってください。

書き込み速度について

CD-Rディスク、CD-RWディスクへの書き込みは、ディスクに指定されている書き込み対応速度に設定して行ってください。
書き込み速度の設定の変更は、ライティングソフトウェアで行います。

ディスクの再生（読み出し）について

本機で作成したCD-RディスクやCD-RWディスクは、ほとんどのCD-ROMドライブで再生することができます。ただし、古いタイプのCD-ROMドライブにはCD-RWディスクの再生に対応していない機種があります。
また、CD-Rディスクで作成した音楽CDは、ほとんどのCDプレーヤーで再生することができます。ただし、一部のCDプレーヤーや車載用のCDプレーヤーには、音楽CD-Rディスクの再生を保証していない製品もあります。
なお、使用するCD-ROMドライブ、CDプレーヤー、CD-Rディスク、CD-RWディスクのメーカー間における品質や諸特性の差により、組み合わせによっては、まれにディスクの再生ができないことがあります。

推奨するディスク

本機では、ソニー製のディスクのご使用をおすすめします。

CD-R　：ソニー製650 Mバイトおよび700 MバイトのCD-Rディスク

CD-RW：ソニー製650 MバイトCD-RWディスク

DVDビデオの再生とリージョンコード（地域番号）について

DVDビデオ（DVD-Video）は、リージョンコード[1]の設定によって、再生が保護・管理されています。
DVD-ROMドライブを使用してDVDビデオを再生するためには、DVDディスクに表示されたリージョンコード、DVD-ROMドライブのリージョンコード、DVDビデオ再生ソフトウェアのリージョンコードのすべてが一致している必要があります。

[1] Region Playback Control規格（RPC規格）

本機でのDVDビデオ再生とリージョンコードについて

本機では、リージョンコードの設定を、初回の設定を含め合計5回まで行うことができます（RPC Phase2規定）。本機のリージョンコードは、付属のDVDビデオ再生ソフトウェア上で設定します。

重要

初回の設定を含めて5回の設定をすると、以降は、5回目に変更したリージョンコードに固定され、設定が変更できなくなります。この場合、再生できるのは、5回目に設定したリージョンコードのDVDビデオのみとなります。

ご注意

不正にリージョンコードの書き換えを行わないでください。この結果生じた不具合等につきましては、保証対象外とさせていただきます。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”とは？

“メモリースティック”は、小さく軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC 記録メディアです。“メモリースティック”対応機器間でデータをやり取りするのにお使いいただけるだけでなく、着脱可能な外部記録メディアのひとつとしてデータの保存にもお使いいただけます。

使用できる“メモリースティック”

本機では、下記の“メモリースティック”が使用できます。

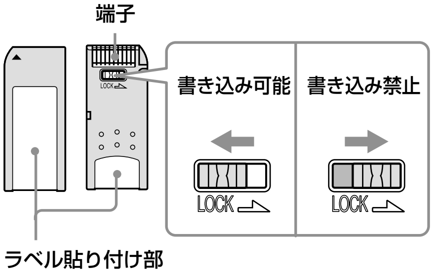
- “メモリースティック”：標準タイプの青い“メモリースティック”
- “マジックゲートメモリースティック”：著作権保護技術（マジックゲート[1]）を搭載した白い“メモリースティック”

1) “マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で記録したデータは著作権の保護の対象にはなりません。

“メモリースティック”を書き込み禁止にする

“メモリースティック”には、データを上書きできないようにするためのライトプロテクトタブがあります。書き込み禁止にすると、データを読み出すことはできますが、書き込むことはできません。



エラーメッセージが表示されたときは

“メモリースティック”のデータを読み出したとき、ディスク書き込みエラーとなり、「ファイルやデータが失われた可能性があります」というメッセージが表示された場合は、“メモリースティック”が書き込み禁止になっている可能性があります。“メモリースティック”の書き込み禁止タブを解除してください（上図参照）。この場合、“メモリースティック”のデータは失われていません。

音楽ファイルについて

本機で演奏できる音楽ファイル

本機で演奏できるのは、下記の条件にあてはまる音楽ファイルのみです。

■ファイル

- MP3 MPEG Audio Layer3（MPEG1、Layer III、44.1 kHz、32 Kbps～320 Kbps）
  ファイル拡張子：mp3
- RIFF WAV（PCM、44.1 kHz、16ビット、2ch）
  ファイル拡張子：wav
- プレイリスト（M3u形式）
  ファイル拡張子：m3u

ご注意

- ファイル名には、「mp3」、「wav」などの拡張子を付けてください。
- 実際の形式と異なる拡張子を付けたファイルは演奏されません。たとえば、MP3形式ではないファイルに「mp3」の拡張子を付けると、本機はそのファイルを演奏できません。

■メディア

- CD-Rディスク
- CD-RWディスク
- DVD-Rディスク[1)]
- DVD-RWディスク[1)]
- “メモリースティック”

1) DVDディスクへの書き込みは、本機ではできません。また、書き込みに使用した機器やディスク、書き込み時の設定によっては演奏できない場合もあります。

■フォーマット

- ISO 9660 Level 1
- ISO 9660 Level 2
- ISO 9660 Joliet
- UDF（Ver.1.02 、1.5）
- FAT（“メモリースティック”のみ）

■使用できるフォルダー数とファイル数

- 演奏できるフォルダー数：
  最大512
- シャッフル演奏できるファイル数：
  最大2048

■圧縮ソフトウェアとライティングソフトウェアの設定

MP3ファイルを作成するときの、圧縮ソフトウェアの転送ビットレートの設定は「44.1 kHz」、「128 Kbps」の「固定」を推奨します。

メディアに書き込むファイルについてのご注意

メディアが挿入されると、本機はそのメディアに記録されている全ファイルを検索します。メディア内に多くのフォルダーがあったり、音楽ファイル以外のファイルがあると演奏開始までに時間がかかったり、次の音楽ファイルの演奏までに時間がかかることがあります。
音楽ファイルを記録するメディアには、音楽ファイル以外のファイルや不要なフォルダーを書き込まないことをおすすめします。

次のページにつづく

プレイリストファイルについて

プレイリストファイルは、ディスクや"メモリースティック"内にある音楽ファイルの演奏順を決めるものです。
本機で使用できるプレイリストファイルは、テキストエディターなどで作成できます。音楽ファイルのパス（保存場所とファイル名）を演奏順に記述し、拡張子を「m3u」にしてディスクや"メモリースティック"に記録します。

ご注意

パスに使用できるのは1バイト文字のみで、パスの区切りに使用できるのは「¥」、「/」、「\」のいずれかです。

プレイリストの例

- **絶対パスで記述する場合**

  プレイリストが記録されているメディアのルートからのパスを入力します。
  例：
  ¥Music¥Popular¥New¥01new.mp3
  ¥Music¥Popular¥New¥May¥may01.mp3

- **相対パスで記述する場合**

  プレイリストが記録されているフォルダーからのパスを入力します。
  例：
  .¥New¥01new.mp3
  New¥May¥may01.mp3

MP3ファイルのID3タグについて

ID3タグとは、MP3ファイルの末尾に追加されるテキスト情報（曲名、アルバム名、アーティスト名など）のことです。

ご注意

- 本機はID3タグフォーマットのバージョン1.0、1.1、2.2[1)]、2.3[1)]、に対応しています。それ以外のバージョンをご使用になると、ID3タグの情報が正しく表示されません。
- 本機では、1バイト文字のみ表示できます（日本語のような2バイト文字は正しく表示されません）。

1) unsynchronized、compressed、encrypted形式には対応していません。

Hi-Speed USBについて

本機は、USB1.1規格よりもデータ転送が高速なUSB2.0規格のHi-Speed USBに対応しています。下記の条件下で本機をご使用になると、Hi-Speed USBに対応した本機の読み出し／書き込み速度[1] をフルに発揮させることができます。

[1] DVD-ROMディスクの場合の最大転送レート：10800 Kバイト/s

- Hi-Speed USB対応のUSBコネクターに接続すること（ご使用のコンピューターにHi-Speed USB対応のPCIアダプターカードやPCカードが搭載されている必要があります。）
- コンピューターにUSB EHCI（Enhanced Host Controller Interface）ドライバーソフトウェア[2] がインストールされていること
- Hi-Speed USB対応のUSBケーブルを使用すること（本機に付属しています。）

[2] USB EHCIドライバーソフトウェアは、市販のHi-Speed USB対応のPCIアダプターカード製品などに付属しています。詳しくは、ご使用のアダプター製品の発売元にご確認ください。また、Windows XPをご使用の場合は、Microsoftより公開されているWindows XP用のUSB EHCIドライバーソフトウェアを利用することもできます。詳しくは、Microsoft社のホームページをご覧ください。

書き込み速度について

本機をUSB1.1製品に接続して書き込みを行う場合は、USB1.1の転送速度に応じた速度で書き込みを行うことをおすすめします（目安として8倍速以下）。

ドライバーソフトウェアをアンインストール（削除）するには

Windowsの場合

Windows XP／Me／2000（Service Pack 3以降）では

OS標準のドライバーソフトウェアが使用されていますので、アンインストールはとくに必要ありません。

Windows 98 Second Editionでは

本機に付属のソフトウェアディスクをご用意ください。ソフトウェアディスク内のアンインストーラーを使用します。

1 **ソフトウェアディスクをCD-ROMドライブに入れる。**

2 **ソフトウェアディスク内のUSBフォルダーを開き、UNINST.EXEをダブルクリックする。**



「アンインストール」ダイアログボックスが表示されます。



ソフトウェアディスクを本機に入れている場合は、UNINST.EXEをハードディスクにコピーしてから実行してください。

3 **［はい］をクリックする。**

次の画面が表示されます。



4 **タスクバーのハードウェアの取り外しアイコンを使って本機を取り外せるようにしてから、本機のUSBケーブルをコンピューターから取り外す。**

5 **［OK］をクリックする。**

次の画面が表示されます。



6 **［はい］をクリックする。**

コンピューターが再起動します。

Macintoshの場合

Mac OS 9では

ライティングソフトウェアのインストール時にインストールされた機能拡張ファイル、「MPD-AP20U Bus」、「MPD-AP20U Shim」、「MPD-AP20U USB」を削除します。

Mac OS X (Ver.10.1)では

OS標準のドライバーソフトウェアが使用されていますので、アンインストールはとくに必要ありません。

使用上のご注意

特に注意していただきたいこと

- 本機をコンピューターのドライブとしてご使用中は、移動したり持ち上げたりしないでください。特に書き込み動作中は、振動や衝撃を絶対に与えないでください。
- 付属のACアダプター以外は絶対に使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- USBケーブルのコネクター付近を強く折り曲げたりしないでください。断線や接触不良の原因になります。

使用・保管場所について

湿気の多いところや温度の高いところ、激しい振動のあるところ、直射日光の当たるところで使用したり保管しないでください。

操作について

本機をコンピューターのドライブとしてご使用になる場合は、水平な場所に置いて使用してください。

輸送について

- 梱包箱は大切に保管してください。輸送の際に必要になります。
- 本機を移動するときは、その前に必ずディスクを取り出してください。

結露現象について

急激な温度変化は避けてください。寒いところから暖かいところに移したり、室温を急に上げた直後は使わないでください。内部に結露が生じている場合があります。使用中に急激に温度が変化した場合は、そのまま使用を中止して1時間以上待ってから、使用を再開してください。

レンズについて

本機のレンズ（ふたの内側）には触れたり、直視しないでください。また、ほこりがつかないようにディスクの出し入れのとき以外はふたを閉じておいてください。

内蔵バッテリーについて

- バッテリーは少し充電して出荷していますが、ご使用の前に満充電にしてください。
- ご使用にならなくても、少しずつ自然放電します。使用直前（1〜2日以内）に充電しなおすことをおすすめします。
- 充電は本機周囲の温度が5〜35 °Cの環境で行ってください。本機内部の温度が45 °Cを超えると充電が停止します。
- バッテリーを長時間ご使用にならない場合でも、機能維持のために1年に1回程度は満充電にし、使い切ってから保管するようにしてください。

次のページにつづく

USBハブへの接続について

本機はコンピューターのUSBコネクターに直接接続してください。キーボードのUSBハブを含め、USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

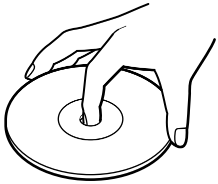
コンピューターから取り外すときは

本機は、コンピューターの電源をオンにしたままで取り付け／取り外しが可能です。ただし、Windowsの場合は本機を取り外す前に、タスクバーのハードウェアの取り外しアイコンを使って本機を取り外せるようにします。
ハードウェアの取り外しアイコンは、Windowsのバージョンによって異なります（下図参照）。これをクリックし、表示されるメッセージに従って操作します。
Windows XP/Me/2000では、ディスクと“メモリースティック”の両方のデバイスを停止してください。

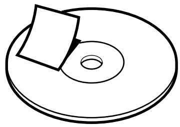
：Windows XP
：Windows Me、Windows 2000
：Windows 98 Second Edition

ディスクの取り扱いについて

- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。記録面に触れないでください。



- ディスクに文字を書いたり、紙などを貼ったりしないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房機具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

DVDビデオの再生について

DVDビデオはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能がはたらかない場合があります。DVDビデオを再生するときは、ディスクに付属している取扱説明書も必ずご覧ください。

“メモリースティック”の取り扱いについて

“メモリースティック”に保存されているデータを保護するため、下記の注意事項に従ってください。

- “メモリースティック”は出荷時に最適にフォーマットされていますので、あらためてフォーマットする必要はありません。コンピューターでフォーマットすると、他の“メモリースティック”対応機器でアクセスできないなどの不具合が発生することがあります。
- コンピューターでフォーマットした“メモリースティック”を“メモリースティック”対応機器で使用する場合は、“メモリースティック”対応機器で再度フォーマットしてください。
- “メモリースティック”に最初から入っているファイル（MemoryStick.ind）は、“メモリースティック”対応機器のためのファイルです。不都合がなければ消さずにそのままご使用ください。
- “メモリースティック”のデフラグやドライブの圧縮は行わないでください。
- 下記の場合、記録したデータが消滅する（破壊される）ことがあります。
  – 読み出し／書き込み中に“メモリースティック”を抜いたり、コンピューターの電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- ラベル貼り付け部には専用ラベル以外は貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック”に付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

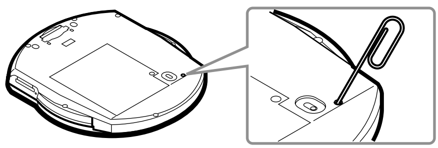
故障かな？と思ったら

指定の相談窓口にご相談になる前にもう一度チェックしてみてください。

それでも具合が悪いときはお買い上げ店または指定の相談窓口にご相談ください。

本機の最新のユーザーサポート情報は、インターネットでもご案内しています。あわせてご参照ください。

http://www.sony.co.jp/sonystorage/

症状	原因／対策
本機がコンピューターに認識されない。または正常に動作しない、動作が不安定。	→ 内蔵バッテリーでご使用の場合は、バッテリーが消耗している可能性があります。本機を電源に接続して充電ください。 → 電源コードやACアダプター、USBケーブルが正しく接続されているかどうか確認してください。 → コンピューターのUSBインターフェースカードのセットアップが正しく行われていない可能性があります。ご使用のUSBインターフェースカードの取扱説明書を参照し、再度セットアップを行ってください。 → Windows 98 Second EditionまたはMac OS 9.xの場合は、ドライバーソフトウェアのインストールが正常に終了していない可能性があります。一度アンインストールを行ったあと（58ページ）、付属の「クイックスタートガイド」の手順に従って再度ドライバーのインストールを行ってください。
Windows 2000で本機の“メモリースティック”リーダー／ライターが認識されない。	→ Windows 2000の場合は、Service Pack 3以降をインストールしないと本機の“メモリースティック”リーダー／ライターをご使用になれません。詳しくは、付属の「クイックスタートガイド」をご覧ください。
電源がオンにならない（コンピューターに接続しても、CHARGE/BUSYインジケーターが緑色に点灯しない）。	→ 何らかの原因で本機の動作が不安定になっている可能性があります。本機底面の緊急リセット穴に、クリップなど先の細いものを差し込んで本機をリセットしてください。 

症状	原因／対策
リモコンを操作しても演奏が始まらない。または、ディスクを入れても「NO MEDIA」と表示される。	→ リモコンのHOLD機能がはたらいているときは、HOLDスイッチを矢印と反対の方向にスライドして解除してください。（50ページ） → リモコンの回転つまみが引き出されているときは、ボリューム調節用です。回転つまみを元の位置に戻してください。 → 本機は、コンピューターに接続していると、リモコンを操作しても動作しません。本機をCDプレーヤーとしてお使いになるときは、コンピューターから取り外してください。本機をコンピューターに接続して音楽を聞きたいときは、コンピューター上の音楽再生ソフトウェアをご使用ください。 → 内蔵バッテリーでご使用の場合は、バッテリーが消耗している可能性があります。本機を電源に接続して充電ください。 → ご使用のディスクに本機で演奏できる形式のファイルが記録されているかどうかを確認してください。（55ページ） → ディスクのファイナライズ処理がされていない場合は、演奏できなかったり、演奏が始まるまでに時間がかかります。 → ディスクや、記録に使用した機器、記録時の設定によっては、本機で再生できない場合があります。 → 何らかの原因で本機の動作が不安定になっている可能性があります。本機底面の緊急リセット穴に、クリップなど先の細いものを差し込んで本機をリセットしてください（62ページの図をご覧ください）。 → 上記で問題が解決しない場合は、このあとの「ディスクを入れたのにデータが読めない。」の項をご覧ください。
ディスクを入れたのにデータが読めない。 音楽演奏中に音とびする。	→ ラベル面を下にしてディスクを入れている可能性があります。ディスクはラベルを上にして入れてください。 → 本機では使用できないディスクの可能性があります。「使用できるディスク」（51ページ）をご覧ください。 → ディスクまたは本機のレンズが汚れている可能性があります。レンズが汚れている場合は、お買い上げ店やサービス窓口にご相談ください。 → ディスクに再生できないほどのキズがある場合があります。本機に異常がないことを確かめるために、キズのない別のディスクに取り替えてみてください。 → 本機のターンテーブルの上にゴミが付着している場合がありますので、清掃してみてください。 → 本機やディスクが結露している場合があります。ディスクまたは本機のレンズが水蒸気でくもっている場合は、ディスクを取り出して約1時間放置してください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
ディスクが取り出せない。	→ 本体前面のLOCKスイッチがはたらいているときは、スイッチを解除してください。 → 書き込み動作中は、EJECTボタンを押しても取り出せません。ご使用のソフトウェアの操作方法に従って取り出してください。 → 何らかの原因でコンピューターがハングアップしている可能性があります。コンピューターを再起動させてください。 → どうしても取り出せない場合は、本体底面のマニュアルイジェクトレバーを矢印の方向に押してトップカバーを開いてください。
CD-R/RWへのデータ書き込み時にデータの書き損じが起こる。	→ 本機をUSBハブ（キーボードのUSBハブを含む）に接続している場合は、コンピューターのUSBコネクターに直接接続してください。 → 書き込み速度を低倍速に設定している場合、高倍速に設定を変更してください。使用するディスクによっては、高倍速での書き込みが最適な場合があります。書き込み速度の設定変更は、ライティングソフトウェアで行います。 → コンピューター（CPU）の処理速度が遅い場合は、書き込み速度を低倍速に設定してください。 → コンピューターのスクリーンセーバーが動作しないように設定を切ってください。 → ライティングソフトウェア以外のソフトウェアを終了させてください。他のソフトウェアが動作していると、データ転送レートが極端に低くなり、データの書き損じが起こるおそれがあります。 → 常駐型のディスクユーティリティーや、ディスクのアクセスを高速化するユーティリティーなどは終了させてください。 → ハードディスクのフラグメンテーション（ファイルの断片化）が原因の場合があります。ハードディスクのデフラグを行ってください。デフラグは、Windowsの「アクセサリ」の「システムツール」などを使用して行います。 → オンザフライ書き込み（2つのドライブを使用してディスクからディスクに直接データを書き込む方式）を行っている場合は、オンザフライの設定を解除してください。または、いったんハードディスクにデータをコピーし、ハードディスクから書き込みを行ってください。オンザフライ書き込みでは、書き込みエラーが発生する確率が高まります。

症状	原因／対策
作成した音楽CDなどを再生すると、ノイズが聞こえる。（再生音にノイズが混入している）	→ ライティングソフトウェアのマニュアルのQ&Aやトラブルシューティングのページなどをご覧になり、書き込み時の設定を変更してください。 → コンピューターによっては、ノイズが発生する場合があります。別のコンピューターを使用するとノイズのないディスクが作成できることがあります。
音楽CDや音楽ファイルの再生音が本機のヘッドホンから聞こえない。	→ 本機をコンピューターに接続しているときは、本機のヘッドホン端子から音声は出力されません。
音楽CDや音楽ファイルの再生音がコンピューターのスピーカーから聞こえない。	→ OSの設定を変更して、音声の出力先を変えます。 **Windows XPの場合** ［スタート］ボタン－［コントロールパネル］－［パフォーマンスとメンテナンス］－［システム］を開き、［ハードウェア］タブの［デバイスマネージャ］ボタンをクリックして「デバイスマネージャ」ウィンドウを表示させます。［DVD/CD-ROMドライブ］－［SONY CD-RW MPD-AP20U USB Device］をダブルクリックし、［プロパティ］タブで［このCD-ROMデバイスで音楽CDを使用可能にする］チェックボックスをチェックすると、コンピューターのスピーカーから音楽を聞くことができます。 **Windows MeおよびWindows 2000の場合** ［スタート］ボタン－［設定］－［コントロールパネル］－［システム］を開き、［デバイスマネージャ］タブを表示させます（Windows 2000の場合は、［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックして「デバイスマネージャ」ウィンドウを表示させます）。［CD-ROM］－「SONY CD-RW MPD-AP20U USB Device」をダブルクリックし、［プロパティ］タブで［このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする］チェックボックスをチェックすると、コンピューターのスピーカーから音楽を聞くことができます。 **Windows 98 Second Editionの場合** ［スタート］ボタン－［設定］－［コントロールパネル］－［マルチメディア］を開き、［音楽CD］タブで［このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする］チェックボックスをチェックすると、コンピューターのスピーカーから音楽を聞くことができます。 **Macintoshの場合** 本機にセットした音楽CDの再生音をMacintosh本体のスピーカーで聞くことはできません。コンピューター上での音楽CDの再生には、Macintosh本体に装備されたCD-ROMドライブやDVD-ROMドライブのご使用をおすすめします。 → コンピューターによっては、スピーカーから音楽を聞くことができないものがあります。その場合は、本機に接続したヘッドホンから聞くことができます。

次のページにつづく

症状	原因／対策
止めたところから演奏が始まる。（レジューム機能）	→ レジューム機能がはたらいています。ディスク内の1曲目から演奏を始めるには、リモコンの回転つまみを、►/►►I方向に演奏が始まるまで回したままにしてください。または本体のトップカバーをいったん開いてください。
音楽ファイルが記録されたディスクを演奏中にディスクが回転していない。演奏は正常に聞こえる。	→ 本機は、消費電力を減らすためにディスクの回転が止まる仕様です。故障ではありません。
本体のトップカバーを閉めるとディスクが回転する。	→ すばやく演奏が開始できるように、本機がディスクの情報を読み込んでいます。故障ではありません。
コンピューター起動時に障害が出たり、ライティングソフトウェアが正常に動作しない。	→ パケットライト方式のライティングソフトウェアがインストールされているコンピューターに、本機に付属のライティングソフトウェアをインストールすると、正常に動作しない場合があります。他のパケットライト方式のライティングソフトウェアはあらかじめアンインストールしてください。コンピューターによってはプリインストールされている場合もありますので、ご確認ください。
付属以外のライティングソフトウェアをインストールしたが、動作しない。	→ ご使用のライティングソフトウェア、またはご使用のライティングソフトウェアのバージョンが本機に対応していない場合があります。詳しくは、ご使用のライティングソフトウェアの製造販売元にお問い合わせください。 ソフトウェアバージョンのアップグレードサービスやダウンロードサービスを利用し、本機に対応できることがあります。
いままで正常に使用できていたが、ある時期から動作が不安定になった。	→ 何らかのアプリケーションをインストールしたあとに動作が不安定になった場合は、そのアプリケーションを一度アンインストールしてください。それで症状が回復した場合は、そのアプリケーションの使用やインストールを控えてください。
リモコンの表示窓に「Batt NG」と表示された。	→ 内蔵バッテリーの異常です。内蔵バッテリーの交換は、「ソニーストレージコール」にご相談ください（裏表紙をご覧ください）。
リモコンの表示窓に「Hi Temp」と表示された。	→ 本機は動作温度の範囲内でご使用ください（68ページ）。充電中に表示された場合は、いったん電源から抜き、しばらくしてからつなぎなおしてください。
バッテリーで使用できる時間が短い。内蔵バッテリーが充電されていない。	→ 低温環境では、バッテリーを使用できる時間が短くなります。 → 内蔵バッテリーの寿命の可能性があります。内蔵バッテリーの交換は、「ソニーストレージコール」にご相談ください（裏表紙をご覧ください）。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

ご注意

保証およびユーザーサポートは、添付の保証書に記載された国または販売地域においてのみ有効です。

アフターサービス

保証期間中の修理は

取扱説明書と保証書の記載内容に基いて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではCD-RW/DVD-ROMドライブの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、修理窓口にご相談ください。

修理のご依頼について

本製品の修理をご依頼の際は、製品本体、およびUSBケーブル、ACアダプターなどの付属品一式を、お買い上げ店やサービス窓口にご提供ください。

- 本製品は持ち込み修理対象製品です。故障その他の理由でお買い上げ店やサービス・相談窓口に製品をご提供いただく場合、受け付けまたはご返却に関わる配送費用、製品の取り付けや取り外し、接続調整などの諸費用はすべてお客様のご負担となります。
- 本製品は、日本国内向け販売製品です。保証およびユーザーサポートは日本国内においてのみ有効です。

主な仕様

速度

書き込み速度

最大24倍速（CD-R）

最大10倍速（CD-RW）

読み出し速度

最大24倍速（CD-ROM）

最大8倍速（DVD-ROM）

ディスク

使用可能なディスク

CD-ROM	DVD-ROM
CD-ROM XA	DVD-Video
Photo CD	CD-DA
CD-RW	CD-R
DVD+R[1]	DVD+RW[1]
DVD-R[1]	DVD-RW[1]
ビデオCD	CD Extra (CD+)
CD TEXT	

ディスク径　12 cm
8 cm（CD-DA 読み出しのみ）

1) 読み出しのみ対応しています。書き込みに使用した機器やディスク、設定によっては読み出しできない場合があります。

書き込み方式

トラックアットワンス

ディスクアットワンス

セッションアットワンス

パケットライト

ドライブ

データ転送レート

最大:10800 Kバイト/s（DVD-ROM 8倍速[2]）

アクセス時間

平均（ランダムストローク）：160 ms

2) 最大データ転送レートは、コンピューターの性能によって異なります。

バッファーアンダーランエラー防止機能

Power-Burn™テクノロジー

レーザー

CD

種類	GH0780MA6CS
波長	780 nm
出力	200 mW（パルス） 100 mW（CW）

DVD

種類	GH6D407B5A GH6D407B5A1
波長	650 nm
出力	6.3 mW

環境条件／保存環境

動作温度

5 °C～35 °C

インターフェース

ドライブインターフェース

Hi-Speed USB（USB2.0準拠）[3]

[3] Hi-Speed USB対応の付属USBケーブルを使用してコンピューターと接続。

バッファ容量

8 Mバイト

"メモリースティック" スロット

書き込み速度

最大1.5 Mバイト/s[4]

読み出し速度

最大2.45 Mバイト/s[4]

[4] 最大書き込み／読み出し速度は、コンピューターの性能や使用する "メモリースティック" の種類によって異なります。

電源・その他

電源

外部電源ジャック　定格10 V

ACアダプター（AC-CRX20）

定格入力	AC100 V-240 V

消費電力

約10 W（充電中）

約7.5 W（充電していないとき）

大きさ

約136.4×22×159 mm（幅／高さ／奥行き）

質量

約320 g（本体のみ）

本体内蔵バッテリー

使用電池

リチウムイオン蓄電池

充電時間

約4時間[5]、[6]

持続時間

音楽CD	連続再生約4時間[6]
MP3 CD	連続再生約10時間[6]
DVDビデオ	連続再生約1.5時間[6]
CD-R	連続書き込み約9枚[7]
CD-RW	連続書き込み約8枚[7]

[5] 完全に放電された状態からの充電時間（ドライブ周囲の温度が23 °Cの場合）の目安です。

[6] 実際の充電時間および再生時間は、周囲の温度、使用条件やディスクの状態によって異なります。

[7] 書き込み枚数は、650 Mバイトのディスクに480 Mbpsの転送レートで、最適な速度で書き込みを行った場合です。ただし、実際の枚数は、コンピューターの性能やディスクの品質、内蔵バッテリーの充電状態により異なります。

クレードル

電源

外部電源ジャック　定格10 V

ACアダプター（AC-CRX20）

定格入力	AC100 V-240 V

使用できる電池（別売り）[8]

充電式単3形ニッケル水素電池（NiMH）[9]

充電式単3形ニカド電池（NiCd）[9]

大きさ

約132.3×43.5×158.5 mm（幅／高さ／奥行き）

質量

約160 g（クレードルのみ）

[8] 乾電池はご使用になれません。

[9] クレードルは充電器としてはご使用になれません。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

製品サポートのご案内

本機の使いかたに関するご相談、本体や付属ソフトウェアに関する技術的なご質問、故障に関するお問い合わせなど、お電話でご相談になる前に、以下で提供している情報をご確認ください。

- ユーザーサポートホームページ
  http://www.sony.co.jp/sonystorage/
- 故障かな？と思ったら
  本書62ページ
- 付属のソフトウェアについて
  ソフトウェアの製造および販売元のホームページでご案内しています。

それでもご不明な場合、以下の相談窓口にお問い合わせください。また、動作の不具合や故障に関するご相談の場合は、次のことをお知らせください。

- 型名：MPD-AP20U
- 製造番号
- 製品の購入年月日・ご購入店名
- ご使用のコンピューターメーカー・型番
- コンピューターの仕様（CPU速度、メモリー容量など）
- ご使用のライティングソフトウェア
- 不具合時の状態：できるだけ詳しく
  製品ご使用当初は問題がなかったか、最初からうまく動かなかったか、など

本ドライブの使いかたに関するご相談、本体や付属ソフトウェアに関する技術的なご質問、故障に関するお問い合わせなどは、本書の「製品サポートのご案内」をご覧になった上で、以下にご連絡ください。

ソニーストレージコール

TEL: 0475-58-0931

受付時間

月～金（祝日を除く）

10:00から18:00

http://www.sony.co.jp/

Printed in Malaysia